
S S マシンガン

喜多河 済

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SSマシンガン

【Nコード】

N3036K

【作者名】

喜多河 済

【あらすじ】

とりあえず、読んでください。低評価は覚悟していますが、がんばって作ったものです。批評をしてください。お願いいたします。

1・嵐のホテルで

「一向にやみそうもありませんなあ」老人が、隣に座っていた中年の紳士に話しかける。

「ええ。なにしろ、大きな低気圧が四個も連続で押し寄せたといいますからね」

「そりゃ、結構なことだ」

しばらくの沈黙。二匹の蟻だと、やはり会話はこんなところで途切れてしまうのか。

2・クリスマス・イブ前日

少女が大きな箱を抱えて、駅前の広場を横切つてゆく。その前に、一人の大柄な男。

「ここを通るのかい、お譲ちゃん。お兄さんに、お金を払いなさい」少女は言う。

「あら、何でなの。あたしがここを通っちゃいけないのは、なんなの」

「世の中はね、君が思っているようではないのだよ」

男が近付くと、少女はその横を通り抜けた。少女は歩いてゆく。

しかし、よく見るとそれは男の勘違いだった。少女の死体は大きな箱に引きずられていた。

3・なんだろな

「お父さん、これ、何」

「なんだろな」

「ね、お父さん。これ、何なの」

「なんだろな」

「ねえ、お父さん」

二人の間には、彼らの母親が倒れていた。二人は、もう三日もこの状態にいる。

4・制服

ある店で、あたらしい制服が公表された。スーツとの違いがわからないくらい、シンプルな見た目。

「これは、どこがスーツと違うのです」一人の記者が問いかける。

「どう考えたって、違うでしょう」

みなが首をひねる中、社長だけがほほ笑んでいた。

「これは、名前がわが社の制服、でしょう」

駄作失礼。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3036k/>

SSマシンガン

2010年10月15日23時28分発行